

学群名：共通教育科目
科目名：国際保健学

英 文 名	International health
科目概要	共通教育科目 2単位
開 講 期	2016年度 前期
科目責任者	梅内拓生
担 当 者	梅内拓生、正木朋也

教育目標	・一般目標 (General Instructional Objectives) 国際保健のビジョンを自ら創出するために必要な考え方ができる。
------	--

授業内容 (シラバス)

回	項 目	内 容	担当者
1	国際保健学序説(1)	国際保健学は何をめざすのか	梅内拓生
2	国際保健学序説(2)	国際保健学の思想基盤	梅内拓生
3	国際保健学序説(3)	欧米の国際保健学 (バッシュ博士の国際保健学)	正木朋也
4	プライマリ・ヘルスケア(1)	WHOの健康の定義と政策	正木朋也
5	プライマリ・ヘルスケア(2)	地球環境問題とプライマリ・ヘルスケア	正木朋也
6	プライマリ・ヘルスケア(3)	グローバリゼーションとプライマリ・ヘルスケア	正木朋也
7	人間開発(1)	健康、経済格差の増大とその問題	正木朋也
8	人間開発(2)	どのような対策が必要か	正木朋也
9	人間開発(3)	人間の安全保障	梅内拓生
10	世界の感染症対策(1)	感染症の疫学からみえてくるもの	梅内拓生
11	世界の感染症対策(2)	感染症対策の問題	梅内拓生
12	世界の感染症対策(3)	地球環境と感染症	梅内拓生
13	世界の母子保健対策(1)	世界の人口増加	梅内拓生
14	世界の母子保健対策(2)	少子高齢化社会	梅内拓生
15	21世紀の国際保健学	健康と持続可能な発展、政治、経済、文化との関係	梅内拓生

到達目標	・個別目標 (Specific Behavioral Objectives) ①科学の発展と世界の人々の多様な価値意識との関係を踏まえて健康についての考えを述べることができる。 ②国連の各種統計データなどをもとに世界動向の全体像を把握して説明することができる。 ③国際保健に関わる実践的活動とその枠組みについて具体例をあげて説明することができる。 ④自分の専門分野を国際保健と結びつけ、国際保健の場で活躍可能であることを自覚できる。
評価方法	連続講義2コマ毎にショートレポートを15分以内でまとめて提出し、これにより講義内容の理解を評価する。 授業への積極的な参加は加点対象とする。
準備学習(予習・復習等)	予習・自習課題が出された場合は次週までに終えておくこと。
その他注意等	講師との積極的なディスカッションを期待する。

教科書	特に指定しない。
参考書	Basch P.F. (PHC開発研究会), 2001, バッシュ国際保健学講座, 551p, じほう 上記のほか、講義時に複数の参考書を紹介する。